

1

2

3

4 Prioris LX Server シリーズ

5 NetWare 3.12J/V セットアップガイド

6 はじめに

本書は、Prioris LX Server シリーズに NetWare 3.12J/V をインストールする際の手順について説明したものです。NetWare 3.12J/V をインストールする場合には「Prioris LX Server セットアップガイド」とあわせてお読みください。

また、NetWare 3.12J/V のマニュアルもあわせてごらんください。

目次

1. 構成上の注意	2	
2. ドライバディスクの作成	2	
3. DOS の設定	2	
4. ディスクドライバのロード方法	3	
5. LAN ドライバのロード方法	4	
6. CD-ROM の設定	4	
7. SBACKUP の設定		5
8. 光磁気ディスクの設定	7	
9. メモリ増設時の設定	7	
10. UPS の設定	8	

7

ご注意

- 1) 本書の内容の一部または全部を無断で転載することは禁止されています。
- 2) 本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
- 3) 本書の内容については万全を期して作成しましたが、お気付きの点がございましたらご連絡ください。よろしくお願いいたします。
- 4) 運用した結果の影響につきましては、3) 項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

DEC, digital, Digital PC, StrageWorks は、米国 Digital Equipment Corporation の商標です。

Microsoft, MS, MS-DOS, Windows, Windows NT は、米国 Microsoft 社の商標です。

Novell, NetWare は、米国 Novell 社の商標です。

その他、記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

1. 構成上の注意

オンボード Adaptec AIC-7850 Fast/Narrow SCSI コントローラ(以降 'AIC-7850')と RAID Array200 コントローラシリーズ(以降 'Array200')を同時に使用される場合、パススルーデバイス(CD-ROM 装置, TAPE 装置, 光磁気ディスク装置等のハードディスク以外のデバイス)は全て AIC-7850 SCSI ポートにだけ接続してください。これは ASPI ドライバの仕様になります。

8

9 Array200 に光磁気ディスク装置を接続することはできません。

2. ドライバディスクの作成

AIC-7850 用ディスクドライバ, オンボード Ethernet コントローラ DECchip21040(以降 'DC21040')用 LAN ドライバは Getting Started CD-ROM を使用し、予めドライバディスクを作成しておく必要があります。

ドライバディスクの作成方法は、「Prioris LX Server シリーズセットアップガイド」を参照してください。

3. DOS の設定

● DOS の言語モード

DOS のインストールが終了したら、SWITCH コマンドを実行して DOS を英語環境にしてください。NetWare 3.12J/V のインストールは、完全な英語 DOS モード(CHEV や US コマンドではなく SWITCH コマンドを使用)で実行してください。

(!) 日本語表示用の DOS ドライバ(JDISP.SYS, JFONT.SYS 等)を使用した場合、VGADISP.NLM, ASPI ドライバ, 各種デバイスドライバとの衝突が発生し、NetWare のインストールが失敗する場合があります。

● CONFIG.SYS および AUTOEXEC.BAT の設定例

CONFIG.SYS および AUTOEXEC.BAT を下記のように編集してください。

CONFIG.SYS 例

```
DEVICE=C:\SCSI\ASPI8DOS.SYS /D  
DEVICE=C:\SCSI\ASPICD.SYS /D:ASPICD0
```

AUTOEXEC.BAT 例

```
@ECHO OFF  
PROMPT $p$g  
C:\DOS\MSCDEX.EXE /D:ASPICD0
```

(!) Prioris LX Server に添付の Getting Started CD-ROM から EZ-SCSI ディスクを作成し、「DOSINST.BAT」を起動してインストールします。このディスク内の ASPI8DOS.SYS よりも古いバージョンを使用した場合 DOS 起動時の PCI バススキャン中にハングアップする場合があります。

● ディスクドライバ、ユーティリティのコピー

下記の ディスク内のファイルを C:\SERVER.312 へコピーしてください。また、クライアント PC がサーバに接続できるようになった時点で SYS:\SYSTEM にもコピーをしてください。

AIC-7850用

Adaptec 7800 Family Manager Set for

NetWare/Windows NT/OS2
A:\NETWARE\V3_1X\AIC7870 .DSK
A:\NETWARE\V3_1X\ASPITRAN.DSK

Array200 用
StorageWorks
RAID Array 200 Software V2.0
for Intel NetWare 3.1x/4.x
A:\3X\ASPIDAC3.DSK
A:\3X\DAC960 .DSK
A:\3X\DACADM .NLM
A:\3X\DACMON .NLM

● **LAN ドライバのコピー**

下記のディスク内のファイルを **C:\SERVER.312** へコピーしてください。また、クライアント PC がサーバに接続できるようになった時点で **SYS:\SYSTEM** にもコピーを行ってください。

3C579 用
EtherDisk
For the EtherLink and
EtherLink III Bus Master Adapters
A:\NETWARE\4&312SRV\3C5X9 .LAN

DC21040 用
Prioris LX Series
EtherWORKS TURBO PCI Family Drivers
A:\NOVELL\SERVER\3.1X\DC21X4 .LAN

4. ディスクドライバのロード方法

10 ディスクドライバのロード例(AIC-7850 の場合)

:load c:aic7870

AIC-7850 コントローラが接続されているスロット番号が表示されます。Adaptec AHA-2940 を装着している場合にはそれらのスロット番号も同時に表示されます。ドライバをロードするコントローラを選択してください。

(!) INSTALL.NLM で 'STARTUP.NCFIS²Ü の作成' を行うと '**slot=x**' オプションがシステムコンソールに表示

された値と異なる値が記述されます。システムコンソールで表示される値に編集してください。

11

12 ディスクドライバのロード(Array200 の場合)

:load c:dac960

13 Array200 を装着した EISA slot の位置に関係なく '**slot=x**' のオプション指定は必要ありません。また、Array200 を複数枚装着した場合でも DAC960.DSK のロードは **1度だけ** で装着枚数分のサポートができます。

(!) 'STARTUP.NCFIS²Ü の作成' を行うと '**slot=x**' オプションが記述され、Array200 の装着枚数分ロード

されますが、'load c:dac960' **1行だけ** の記述にし、'slot=x' オプションも削除してください。

5. LAN ドライバのロード方法

14

15 LANドライバのロード例(3C579の場合)

:load c:3c5x9

3C579を装着しているスロットが表示されますので、ドライバをロードするカードを選択してください。

16 LANドライバのロード例(DC21040の場合)

:load c:dc21x4 media=xx

DC21040のPCIスロットが表示されますので、その値を使用スロット値として選択してください。

Ethernetのメディア選択は‘media=’オプションに‘TP’(10BASE-T), ‘BNC’(10BASE-2)のどちらかを指定してください。

6. CD-ROMの設定

CD-ROMメディアを交換する場合、CD-ROM装置の前面パネルのアクセス確認用LEDの点滅が終了してから、CD-ROMの操作(cd device list, cd mount等)を行うようにしてください。LEDの点滅中にCD-ROMの操作を行うと、CD-ROMメディアがボリュームとして認識できなくなる場合があります。

SBACKUPを行いながら、CD-ROMのマウント等の操作を行うとシステムが不安定になったり、CD-ROM index作成が正常にできない場合があります。

パススルーデバイスを使用する場合には‘scan for new devices’コマンドを2回AUTOEXEC.NCFの3行目と4行目の間(‘ipx internal net’の次の行)に2行を記述してください。

STARTUP.NCF記述例(AIC-7850の場合)

SET RESERVED BUFFERS BELOW 16 MEG = 200

load vga disp

load keyb japan

load c:aic7870 slot=xxx

AUTOEXEC.NCF記述例(AIC-7850の場合)

file server name DEC

ipx internal net 8000

scan for new devices

scan for new devices

load c:aspicd

load c:cdrom

STARTUP.NCF 記述例(**Array200** の場合)
SET RESERVED BUFFERS BELOW 16 MEG = 200
load vgapisp
load keyb japan
load c:dac960 ...Array200 を複数枚使用する場合でもロードは **1回だけ**
load c:aspidac3 ...Array200 を複数枚使用する場合でもロードは **1回だけ**

AUTOEXEC.NCF 記述例(**Array200** の場合)
file server name DEC
ipx internal net 8000
scan for new devices
scan for new devices
load c:cdnaspi enable512
load c:cdrom
load c:dacmon
load c:dacadm
remove dos

STARTUP.NCF 記述例(**AIC-7850, Array200** を両方使用する場合)
SET RESERVED BUFFERS BELOW 16 MEG = 200
load vgapisp
load keyb japan
load c:dac960 ...Array200 を複数枚使用する場合でもロードは **1回だけ**
load c:aic7870 slot=xxx

AUTOEXEC.NCF 記述例(**AIC-7850, Array200** を両方使用する場合)
file server name DEC
ipx internal net 8000
scan for new devices
scan for new devices
load c:aspicd
load c:cdrom
load c:dacmon
load c:dacadm
remove dos

NetWare コンソールから、cd device list, cd mount等のコマンドで CD-ROM のマウントができます。詳細は cd help または、NetWare のマニュアルを参照してください。

7. SBACKUP の設定

SBACKUP で光磁気ディスク装置は使用できません。光磁気ディスク装置を SBACKUP 用のテープ装置として認識するか、取り外し可能なハードディスクとして認識するかは使用する SCSI コントローラのドライバの仕様によって決まります。SCSI Inquiry ID を 00h または 07h に切り替えられる装置でも使用できません。

SBACKUP を行いながら、CD-ROM のマウント等の操作を行うとシステムが不安定になったり、CD-ROM index 作成が正常に行えない場合があります。

CD-ROM 装置, TAPE 装置, 光磁気ディスク装置等のパススルーデバイスを使用する場合には
'scan for new devices' コマンドを 2 回 AUTOEXEC.NCF の 3 行目と 4 行目の間 ('ipx internal
net' の次の行) に 2 行を記述してください。

STARTUP.NCF 記述例(AIC-7850 の場合)

SET RESERVED BUFFERS BELOW 16 MEG = 200

load vgapisp
load keyb japan
load c:aic7870 slot=xxx

AUTOEXEC.NCF 記述例(AIC-7850 の場合)

file server name DEC
ipx internal net 8000
scan for new devices
scan for new devices

STARTUP.NCF 記述例(Array200 の場合)

SET RESERVED BUFFERS BELOW 16 MEG = 200

load vgapisp
load keyb japan
load c:dac960 ...Array200 を複数枚使用する場合でもロードは **1 回だけ**
load c:aspidac3 ...Array200 を複数枚使用する場合でもロードは **1 回だけ**

AUTOEXEC.NCF 記述例(Array200 の場合)

file server name DEC
ipx internal net 8000
scan for new devices
scan for new devices
load c:dacmon
load c:dacadm
remove dos

STARTUP.NCF 記述例(AIC-7850, Array200 を両方使用する場合)

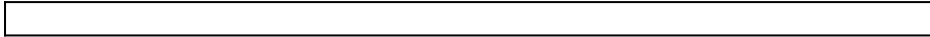
SET RESERVED BUFFERS BELOW 16 MEG = 200

load vgapisp
load keyb japan
load c:dac960 ...Array200 を複数枚使用する場合でもロードは **1 回だけ**
load c:aic7870 slot=xxx

AUTOEXEC.NCF 記述例(AIC-7850, Array200 を両方使用する場合)

file server name DEC
ipx internal net 8000
scan for new devices
scan for new devices
load c:dacmon
load c:dacadm
remove dos

--



(!) SBACKUP を使用しない場合にも 'SET RESERVED BUFFERS BELOW 16 MEG' の値は 40-200 程度の値に設定することをお勧めします。

必要に応じて TSA312.NLM をロードします。

SBACKUP.NLM をロードした後、デバイスドライバの選択の画面では「Using NOVADIBI」を選択し、バックアップを行ってください。

8. 光磁気ディスクの設定

AIC-7850 は光磁気ディスク装置のサポートに対し、特別なドライバを必要としないので、STARTUP.NCF 等の変更は必要ありません。

光磁気ディスクメディアを挿入した状態でディスクドライバをロードした場合、AIC-7850 用ドライバはメディアをチェックします。メディアを後から挿入した場合には、コンソールから 'scan for new devices' コマンドを続けて2回入力してください。

また、AUTOEXEC.NCF の 'ipx internal net' 行の次に、'scan for new devices' を2行追加してください。これらの操作、設定以降は INSTALL.NLM の 'パーティションテーブル' で光磁気ディスク装置の認識ができます。

ハードディスクと同様に NetWare パーティションを作成することにより、NetWare ボリュームを作成することができます。

光磁気ディスク装置のイジェクトボタンのロックは MONITOR.NLM の 'ディスク情報' で変更してください。

(!) NetWare 3.12J/V は NetWare 3.11J と異なり、mount, dismount コマンドによる光磁気ディスク装置のイジェクトボタンのオートロックを行いません。必ず、dismount コマンドを実行し、光磁気ディスク装置のアクセス用 LED ランプが消灯したのを確認した後で光磁気ディスクメディアを抜いてください。一般に、光磁気ディスク装置が装備するキャッシュ上のデータをメディアへ書き込む作業は遅延されることが多くあります。このため、データ保護のために LED ランプが消灯したことを必ず確認してください。

9. メモリ増設時の設定

● メモリの増設または、取り外しをした場合

必ず SCU(System Configuration Utility)を起動し、メモリを正常に認識していることを確認し、設定内容を保存してください。

システム起動時のメモリテスト、もしくは BIOSsetup(システム起動時に <F2>キーで起動するセットアップメニュー)で全メモリ容量を認識していた場合でも、SCU(System Configuration Utility)を用いて設定を保存しないと、EISA システムでは NetWare から正常に認識されない場合があります。これは NetWare がメモリ容量を参照するアドレスと BIOSsetup が使用するアドレスが異なるためで、16MB を越えるメモリを使用する EISA システムとしての仕様です。

● 16MB を越えるメモリを使用する場合

EISA/PCI マシンである PRIORIS シリーズは装着した全使用メモリを NetWare で自動認識します。'register memory' コマンドの実行は必要ありません。但し、一部の 16bit ISA カードを装着した場合には register command が必要になることがあります。詳しくはオプションカードに添付の取り扱い説明書を参照してください。

10. UPS の設定

17

(!) UPS の接続に マウスポートはサポートしていません。

UPS 用のケーブルには汎用の RS-232C ケーブルを使用するタイプと、専用ケーブルを使用して機能拡張を行っているタイプ (APC 社製 Smart-UPS 等) があります。また、NetWare に付属している UPS.NLM を使用するタイプと、専用 NLM を使用して機能拡張を行っているタイプ (APC 社製 Smart-UPS 等) があります。

ここでは、RS-232C ケーブルと、UPS.NLM を使用する場合の UPS の設定について記述します。他のタイプの UPS については、その製品に添付の取り扱い説明書を参照してください。

● COM ポートの設定について

RS-232C で UPS を接続する場合には UPS.NLM のロードオプション PORT=1 および PORT=2 のリソース値は、以下の設定になっています。

```
PORT=1 ... COM1: I/O Address=3F8h, IRQ=4  
PORT=2 ... COM2: I/O Address=2F8h, IRQ=3
```

COM1, COM2 の I/O Address、および IRQ の値は、工場出荷時には上記の値に設定されていますが別の値にも設定できます。UPS 装置を接続する時には、COM1, COM2 の I/O Address、および IRQ の値を上記の工場出荷時の設定で使用してください。

● UPS.NLM のロード方法

コマンド例

```
:load ups type=6 port=1 discharge=5 recharge=540
```


オプション説明

type:	UPS 装置とのインタフェース (type=6...RS232C)
port:	RS232C のポート番号
discharge:	UPS 装置のバッテリーが電力を供給できる分数
recharge:	UPS 装置のバッテリーが放電した後、再充電に必要な分数

(!) UPS の設定終了後は UPS 内のバッテリーの充電を行ってください。バッテリーの充電量が十分になったのを確認した後で、UPS に電源を供給している AC ケーブルを抜き、実際に NetWare のシャットダウンが行われるかどうか、確認を行ってください。

● APC 社製 Smart-UPS を使用される場合の注意事項

製品に添付の導入用ディスクは DOS 版と Windows 版があります。インストールを行う際には必ず Windows 版を使用してください。DOS 版 FD でインストールを行った場合、AUTOEXEC.NCF の修正が正常に行われない事があります。